

2025 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 13 日

1. 職名・氏名 教授・横田実世

2. 学位 学位 Ph.D、専門分野 自然人類学、授与機関 テネシー大学、授与年 1997 年

3. 教育活動

(1) 講義・演習・実験・実習

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

【前期】英語 A（経済学科）、英語 B（看護学科）、英語 IIb（海洋）、英語発展 IA（対面・遠隔—2 クラス）

【後期】英語 C（恐竜・生物資源・創造農学科）、英語 D（創造農学科）、英語発展 IB（対面・遠隔—2 クラス）

② 内容・ねらい

【前期】＊英語 A（経済学科）：全学部共通で使われた英文法基礎の教科書を自学自習として使い、授業では主に TOEIC の教科書を使い、リスニング・読解力・英文法を中心に経済学科で関連する英語を学んだ。

＊英語 B（看護学科）：英語 A 同様に使われた文法基礎の教科書を自学自習とし、授業では看護英語の教科書を使い、総合的な英語力向上を目指した。

＊英語 IIb（海洋学部）：日本のモノづくりを英語で理解する教科書を使い、英語を学ぶと同時に学生の「推し」企業のグループプレゼンテーションを英語で行い、学生間で良かったと思うプレゼンテーションを投票した。

＊英語 IA（選択科目）：様々なプレゼンテーションのやり方を学び、4 回プレゼンテーションをおこなった。内容を段階的に難しくしており、最初は自己紹介から始まり、絵画（共通）を見てのプレゼンテーション、最後は学生各々が学んでいる分野をもとにしたプレゼンテーションをおこなった。

【後期】

＊英語 C（生物資源学部・恐竜・地質学部）：全学部共通のリーディング強化の教科書を使い日本や世界で抱えている問題（育休・障害者の暮らし・倫理的消費など）を学んだ。

＊英語 D（創造農学科）：理系文系の学部で教科書を分けて担当の創造農学科には Science in Curiosity の教科書を使い自然科学現象の仕組みを英語で学んだ。

＊英語発展 IB（選択科目）：アカデミックライティングでレシピや説明書、パラグラフの書き方、A I を使った英作文および倫理・注意事項などを学んだ。また、課題で出したライティングを何度も加筆修正し、学生のライティングの向上を図った。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

＊アメリカのテネシー大学（前期）、フィンドレー大学（前期）やウスターポリテクニク大学（後期）の学生が県立大学に訪問した際に英語 B（看護）、英語 IIb（海洋）、英語発展 IB（選択科目）、英語 D（創農）のクラスにそれぞれ参加してもらい、日本人学生と交えて英会話を行った。

＊英語発展 IA（選択科目）：福井市の増永眼鏡株式会社からマレーシア新入社員 2 名を招待して日本で外国人として働くこと、日本の大学で体験したプラスマイナス点などをプレゼンテーションしてもらい、日本人学生と discussion をおこなった。

＊英語 IIb（海洋）：モノづくりでは学生の「推し」の会社についての海外の人が全く知らないことを想定して英語でのプレゼンテーションを行った。

＊英語発展 IB（選択科目）：A I を使った英作文のやり方および注意事項などを取り入れた。また専門分野で使うであろう論文アブストラクトの書き方を学んだ。

(2) その他の教育活動

- * シンガポールポリテクニク異文化コミュニケーション研修プログラムの実施・引率（2025年2月16日～2月25日）：英語の苦手な学生や海外経験のない学生も海外体験学習が参加しやすいプログラムを作成し第1回研修を行った。現在シンガポール研修【上級編：探究型英語教育】とマレーシアの企業・産業を学ぶ英語研修を構築中
- * TOEIC—Bridge：県大での英語の指標テストとして導入・実施（3～4月、11月）
- * フィンドレー大学看護福祉短期研修に参加する学生の英語プレゼンテーションの指導（12月～1月）

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	【 本】
② 学術論文（査読あり）	【 本】
③ その他論文（査読なし）	
④ 学会発表等	
*Yokota, M. R. Kawabata (2025) Understanding Endurance Running Performance of Japanese Highschool Students: Psychometric Approach. World Congress on Kinesiology & Sport Science (2025 WCKSS), Jeju, Korea. October 25, 2025.	
*川端良介、横田実世(2025) 陸上競技投てき審判員における役割および競技種目が身体活動量に及ぼす影響 東北体育・スポーツ学会、宮城教育大学 令和7年12月13日	
	【2件】
⑤ その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
[学内]	
*国際センター競争資金（皮膚温を使った非侵襲的熱中症インディケーター、RedZone アルゴリズムの開発）	
*海外学会発表支援（World Congress on Kinesiology & Sport Science、韓国）	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
*審査員：2025 World Congress on Kinesiology & Sport Science, Jeju, Korea; Doctoral Dissertation Award and Young Investigator Award	

5. 地域・社会貢献活動

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
国際センター（派遣統括） 入試本部委員会
(3)学内行事への参加
* 異文化コミュニケーション研修（シンガポール）説明会主催（7月24日、10月9日）オンライン英会話説明会（11月20日）、危機管理ガイダンス説明会（12月15日）、渡航前ガイダンス（1月15日） * 看護学部大学院健康生活科学研究科特別講義（カナダ・ウェスタンオンタリオ大学・パメラブロック教授）（5月1日） * UTK-FPU コラボレーションワークショップ：地域を作る日常のデザイン（地域政策研究所）（6月27日） * 科研費獲得ウェビナー（7月29日） * 白檜祭（永平寺キャンパス 10月18日） * はじめてのファシリテーション講座（11月15日）地域経済研究所 * ワールドカフェ学生留学体験談（シンガポール・フィリピン）
(4)その他、自発的活動など
* 福井高専と弘前大学との共同研究（非侵襲的パラメーターを使った熱中症アルゴリズム）に向けての準備・打ち合わせおよび科研費申請 * シンガポールポリテクニクでの探求型異文化コミュニケーション研修の作成・準備およびJASSO申請（多文化共生社会から学ぶ課題解決型クリティカルシンキング育成プログラム） * 昨年アジア運動生理学学会の主催大学であった Tunk Abdul Ruhman University of Management and Technology (TARUMT) の語学学校を訪問し、シンガポール研修とは別に産業と文化を学ぶプログラムの作成交渉（9月5日、6日） * 増永眼鏡株式会社（社長および総務事務）との授業のための情報交換および準備（1～4月） * 福井大学グローバル・エンゲージメント推進本部キックオフシンポジウム参加(1月23日) * 福井工業大学特別公開講座参加（6月21日） * 福井県立大学看護学部：看護に特化したマレーシア研修の紹介および今後の看護学部における国際展開への話し合い（11月25日：大島先生・金粕先生・浪指国際マネージャー）